

パナマ運河視察(2016年8月)

今年の4月に、パナマ共和国のパレラ大統領と日本の海運業界の方達との昼食会に参加しました。その時に、大統領はもうすぐ通過開始をする新パナマ運河の説明と利用促進をPRをされていました。弊社はNVOCCとして、ALL WATERサービスで、長年パナマ運河を使用してきた“ヘビーユーザー”ですし、人生で一度は見て見てみたいと思っていたところ、その後すぐ今年の8月に視察する機会を得ました。

菅 哲賢

【パナマ運河太平洋側にあるミラフローレス閘門(旧パナマ運河)】



いわゆる旧パナマ運河で、閘室内では両側から牽引機関車(川崎重工製)が本船を引っ張ることにより、本船は安定した状態で進むことができます。牽引機関車が両側から引っ張る閘室はいわゆる「パナマックス」と呼ばれる全長294m、全幅32.3m、喫水12mまでの船舶に対応しており、1日35~40隻の本船が通航しています。(最大コンテナ船約5,000TEU)を2時間ほど視察しましたが、数隻実際に船が目の前を通過するのを見て、感動しました。

【ガソン湖の北、カリブ海に面した新閘門(新パナマ運河)】



新閘門の現在の通航数は1日4隻程度。6月の新閘門開通以来、あまり高い生産性ではないが、今後、パイロットが新業務に慣れていけば、1日12隻の本船通航が可能となる見込みです。(最大コンテナ船約12,000TEU)新閘門では、牽引機関車の設置はなく、ニューパナマックス船の通航を行っているベルギーのベレンドリヒト閘門で運用されているタグボートの補助により本船を誘導しています。視察中はあいにく船が通過するのを見ることはできませんでしたが、今度はぜひ乗船して通過してみたいものです。

【In 帝国ホテル(東京) 2016/4/19】



左:ジャパントラスト代表 菅 中央:パナマパレラ大統領



スマートフォン用サイトの開設

2016.9.15よりスマホページの運用を開始しました。よりお客様が使い易く、身近でお役立て出来るよう北中南米の資料や SHIPPING スケジュール、社員ブログ等をこちらでご覧になることも可能です。また、簡単に御見積に関するお問い合わせがこちらから出来るようになっております。是非、一度ご覧下さい。「ジャパントラスト」と検索すれば、出てきます!

